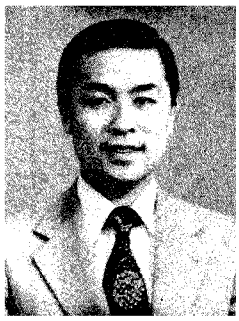
第四回　日中友好山梨県訪中
青年の翼に参加して

上谷五丁目　三枝公仁



日本と中国との時差は、ピタリ一時間である。五月末の北京の日暮れは、日本と同様午後七時過ぎであった。だが西安では午後八時を過ぎてもまだ明るいのである。それもそのはずで北京から西に千二百km離れている西安である。

更に西安を起点とするシルクロードを遥か遠く西に向かいパキスタンとの国境付近では、午後七時でもおそらく太陽は空高く昇っているであろう。日本の二十六倍の面積を持つ中国の広さの一端を知る事ができた西安での黄昏時であった。私は、五月二十日から六月一日までの十三日間、青年の翼の団員として中国を訪問する事ができた。我が国と中国では二千年来の交流があり、中国から学んだものは、宗教・芸術・学問・生活風習・政治制度など挙げれば枚挙に暇がない。西安（昔の長安）近郊の唐時代の貴族の墓を見学した。その壁に描かれていた壁画は、日本の高松塚古墳の壁画と非常に似ていた。又、陝西省（せんせいしょう）博物館を見学した時の展示品の中に、日本の古銭である和同開珎（ちん）があった。千三百年余り前に中国に渡り、貴重な中国の文化を日本にもたらした遣隋使、遣唐使の遺徳が偲ばれた。

生活面では広い国土を持ちながら、国民一人当りの耕地面積が日本の半分しかない現状の中で、中国人民は質素に生活を営んでいた。一人の人間が贅沢する事により多数の人間が飢えの危険にさらされなければならないのが、中国の現状なのである。中国では三十二年前に国家社会から贅沢を廃して飢えをなくす社会制度の道を選択した。この判断は、主義・主張以前の問題であろう。新生中国では、与えられた生活環境の中で、老若男女が生き生きと生活している様に私の目には映った。トルストイの言葉に「幸福とは、不幸だと思わない事だ」とある。物質万能社会との批判がある日本社会と幸福とは何かを考えさせられた中国の旅であった。日本と中国との友好親善関係の発展を都留市の皆様と共に祈りたい。

西安市、近郊の自由市場の風景

○個人の収入になる。

○野菜、くだ物、生活必需品などを販売。

○各個人の家の庭先、家の裏など小さい畑にて作った物。（せん菜もの）

上海市、小年宮（英才教育をする日本の学校終了後のクラブ活動に当る学習、体育の特別指導をする所。試験、もしくは、各学校の子供を推せんにて入れる）

赤いネッカチーフは「先峰隊」と言う。学業、行動の優秀な子供。

元都留市長
前田清明氏逝去

元都留市長前田清明氏には、七月五日逝去されました。

氏は、宝村議会議員（議長）、都留市議会議員（議長）、山梨県人事委員会委員などの要職を歴任の後、第三代の都留市長に就任され、二期八年にわたり、都留市勢の伸長にご尽力いただきました。

氏は、都留市の未来像は「産業と文教のまち」にありとし、特に都留文科大学の整備、優秀企業の誘致、農林業の振興には多大の功績をあげられ、都留市の発展に大きく貢献されました。

市長退任後も、長老として市政発展のために格別のご尽力を賜わっておりました。

地方自治のご功労により、従六位勲五等瑞宝章及び山梨県県政功績者として受章の栄に輝いております。

急性腎不全により、八十三歳の生涯を終えられましたが、氏のご功労に対し心から敬意を表し、ご冥福をお祈りします。

社会福祉事業に寄附

去る八月三日都留市大幡前田一徳氏が市役所に高部市長を訪づれ七月五日逝去された父親前田清明氏（元都留市長）の葬儀にともなう香典等の一部を老人福祉関係に役立ててほしいと金五〇万円也を寄附されました。

市ではさっそくこの善意による寄附金を老人福祉センターの健康器具等購入費に当てさせていただきます。

ここにあらためて暖かい善意に感謝申し上げると共に故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。